

めざす子ども像

- **みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども**
- **「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども**
- **感性豊かで、たくましく自立する子ども**
- **地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども**
- **共に汗して働くことのできる子ども**

取組目標

すべての園児・児童・生徒に15年間の連続した「学び」を保証するために、地域の力を活用しながら学校園の教育活動を支援する。また、学校園を核とした地域コミュニティの活性化と、地域の教育力を高めるための協働により、地域に園児・児童・生徒が活躍できる場を作ることによって「自己有用感」の育成を図る。

【今年度の取組紹介】

一昨年から続く新型コロナウイルス感染症が依然として拡大と減少を繰り返す中、以前とは大幅に規模縮小となりましたがSAKURA夢フォーラム、SAKURA夢フェスタを感染防止対策を行いながらできる範囲で3年ぶりに実施することができました。

また、SAKURA夢スクールも感染防止対策に注意をしながら英会話・編み物の2講座を開講することができました。



【今年度のまとめ】

まだまだ新型コロナウイルス感染症が終息していない中での開催ではありましたが、事業を実施することができ地域の方々も多く参加してくださいました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルスの対応が春から5類相当に変更される見通しであるので、少しでも従来行われていた活動が実施できるように、子どもたち・学校園・地域が協力していきたいと思っております。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

自己有用感を育成し高めることで、学習への意欲回復・基礎学力の向上と規範意識の育成につなげる。

【今年度の取組紹介】

「地域に開き、地域と共につくる学校」をテーマに様々な活動を計画しておりました。今年度もコロナ禍での活度は難しく、制限をもうけた活動がたくさんありましたが、本格的に活動を再開することができたものもありました。そういった中、懸念されていた生徒と地域の方々とのつながりの希薄化も杞憂に終わり、これまでの活動に今年度の活動が重なり、生徒と地域の方々との絆が育まれていきました。

図書館運営においては、継続的に地域ボランティアの方々による協力をいただき、読書推進活動がすすみました。生徒の図書室の利用制限がある中、安心・安全にいつでも自由に図書室が利用できるように、室内のレイアウトを変えていきました。



本格的な再開となった「クリーンキャンペーンの様子」

【今年度のまとめ】

今年度はようやく本格的な活動の再開にこぎつけることができ、スローガンである「地域で子どもを育てる」という地域の方々とともに取り組むシーンを校内で見ることができました。そのようなシーンを見るにつけ、改めて地域の方々の存在の大きさや交流の大切さを再認識する一年となりました。

【来年度に向けて】

今年度、ようやく一部ながら本格的な活動を再開することができました。来年度からはさらに積極的に活動を再開し「地域に開き、地域と共につくる学校」のテーマにそった事業を推進していこうと考えています。地域の人に学校へ足を運んでもらう取組を継続しながら、その中で地域の方々との触れ合いを通じて、生徒たちが「自己有用感」を感じ、さらには地域の一員としての認識の向上や規範意識の醸成につながればと考えています。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

地域と学校が連携して学習環境の整備に取り組み、子どもが地域の一員であることを自覚し、地域に誇りをもって生きようとする姿勢を育む。

【今年度の取組紹介】

本校の地域の方々は「子どもは地域で育てる」ということを大切にしており、学校・地域・家庭が連携・協働して事業を進めています。今年度は新型コロナウイルス感染症に配慮しながら、人とのかかわりを重視した活動を行いました。

○ 服のチカラプロジェクト

子どもたちが主体となって子ども服の回収を行い、回収した服を難民などの必要とする人々に届けるという服のチカラプロジェクトに5・6年生が参加しました。自分たちにできる社会貢献があることを知ったり、SDG'sの視点から物事を見ることを学んだりしました。子ども服の回収には地域・保護者の方とともに協力して取り組むことができました。

○ 菜の花プロジェクト

今年度も地域の方との協力のもと、菜の花プロジェクトをすすめることができました。地域の方と協力して、昨年度に植えた菜の花を6年生が収穫し、搾油をしました。搾った菜種油は5年生が、世界遺産学習の際に春日大社と興福寺に奉納しました。そして5年生は来年収穫することになる菜の花を植えました。学年をまたいで活動が続いていきます。

**【今年度のまとめ】**

今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行っている事業のうち屋内での活動や多くの方が交流するような行事については実施できないまま終わってしまいました。

そのような中でも地域と協力して取り組めることを進め、回数は少ないですが人とのつながりを感じる活動を行うことができました。

【来年度に向けて】

来年度は今年度できなかった活動の取り組み方について検討し直したり、新しい活動を模索したりすることも必要だと思えます。これまでのよさを踏襲しつつ、新しい取組にもチャレンジしていきたいと思えます。

めざす子ども像**○みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども****○「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども****○感性豊かで、たくましく自立する子ども****○地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども****○共に汗して働くことのできる子ども****取組目標****活動の中で子どもたちが地域とのつながりも感じられるような地域と密に連携した環境整備、学習支援活動等の取組の充実。****【今年度の取組紹介】**

○環境整備事業

学校園の整備を行っていただき、子どもたちとともに季節に応じた様々な草花の栽培を行っていただきました。

季節ごとに玄関や職員室前の廊下の飾り付けをしていただき、きれいな手作りの飾りに、みんな足を止めて見入っていました。また、年末には松の剪定もしていただきました。

○学習支援活動事業

家庭科の実習で協力いただきました。裁縫の実習では、ボランティアの方に補助をしていただき、ミシンの使い方等をはじめ、裁縫に関する手ほどきを優しく教えていただきました。

○読書力向上事業

絵本の読み聞かせボランティア「お話ドラゴン」のみなさんが、毎週水曜日に朝の学習時間を使って絵本の読み聞かせをして下さりました。また、学校図書館の整備を、図書館司書の先生と共に行っていただきました。児童も読書を楽しみにし、児童の読書力向上へつながってきています。



○児童の安全指導事業

毎日の登下校時に児童の見守りをしていただきました。また、1年生の給食が始まるまでは地域ごとに分かれ、一緒に下校していただきました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍という、困難な状況の1年となりましたが、そのような状況でありながら、今年度も地域の方々に様々な面でご協力いただきました。特に地域と共に行った1月の防災教育DAYははっきりと実感できる変化でしたし、登下校時の見守り活動や家庭科の実習補助、学級園での草花の栽培等においては、制限を設けながらの活動とはいえ、地域の方々と触れ合いながら活動したので、児童はたくさんの方々に支えていただいているということを実感できたようでした。

【来年度に向けて】

次年度からコロナが収束する状況において、継続して行えるもの、一旦取りやめなければいけないもの、新たに活動を始めていくもの等、どのような活動ができるのかを模索していくことが引き続きの課題となってきます。

活動ボランティアが高齢化し、ボランティアを卒業される方が増えてきているという現状があります。新たな人材を発掘し、現状並みの人数を確保できるよう地域に働きかけていく必要があります。また、多くのボランティアの方に力を発揮していただき、人材を有効に活用することができるよう運営委員会を中心に活動内容や連絡体制を見直していく必要もあります。そしてより活動の活性化を図れるようボランティアの皆さんの意見を聞き、取り入れていきたいと思っております。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

地域の教育力を活用し、継続性をもって学習環境や学習体験を豊かにしていく事業を目指す。

【今年度の取組紹介】

今年度もたくさんの地域の方々の協力を得て、様々な取組をしてきました。確かな学力の育成に向けては、新型コロナウイルス感染症予防に最大限努めながら、たくさんの講師の方々に来校いただき、子どもの学力向上のために研究実践を重ねてきました。地域の方の畑でいもほり体験、車いす福祉体験学習、地域の詳しい方からお祭りについて学ぶ学習、地域消防団の方々に来校いただきポンプ車の放水体験や聞き取り学習、家庭科の学習（ミシン補助）などを行いました。さらに、明治地区自主防災防犯会と女性防災クラブの方々の協力を得て防災学習を行うことができました。

今年度は新たに、子どもたちが福祉・介護の仕事を理解するため、民生児童協議会や社会福祉協議会の方々に来校いただき、車いす体験学習とボッチャ体験学習も行いました。

まずは子どもたちが普段慣れている学校の中で車いす体験を行いました。子どもたちは少しの段差や勾配でも進むことが困難であることに気付くとともに、学校のバリアフリーと段差とを改めて認識し、実際の街はどうなのだろうという考えをもつことができました。

次にパラリンピックの正式種目であるボッチャを体験しました。ボッチャのルールの説明を受け、子どもたちで作戦を練り、しっかりと考えながらゲームを楽しみました。子どもたちの感想の中には、障がいの有無や年齢にかかわらず誰でも楽しむことができるスポーツであるので、ボッチャがもっと広がってほしいというものが見られました。

**【今年度のまとめ】**

地域の方々と子どもたちが共に活動する機会をたくさん設定することで、子どもたちは地域の方々と親しみをもって触れ合い様々なことを学ぶことができました。子どもたちは地域の一員としての自覚と誇りをもち、自尊感情を高める取組につながりました。今後も学校と地域が連携を図ることにより、子どもたちが自己肯定感を持てるような取組等を更に進めていきたいと思ひます。

【来年度に向けて】

引き続き、地域との連携を深め、新たな取組と人材発掘に努めるとともに、「地域と共に歩む学校」をめざして取組を進めてまいります。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

豊かな感性をもち地域とともに主体的に生きる子どもの育成

【今年度の取組紹介】

帯解小学校では、地域の方をゲストティーチャーとして招き、地域の方と共に活動したり、学んだりする取組を栽培活動や体験・交流活動、聞き取り学習として長年取り組んできました。しかしながら本年度も、引き続きコロナウイルス感染拡大防止のため、大半の事業を断念せざるを得ず、本来の地域で決める学校予算の活動ができない1年間となりました。そんな中でも、何とか実施できた事業を紹介します。

図書ボランティア「みなくる」さんによる「本の読み聞かせ」活動では、月に一度全校や学年に絵本の読み聞かせをしてくださり、子ども達の読書推進に貢献してくださっています。5年生における栽培活動においては、地域の方からお借りした田で実際に稲まきから田植え、秋には稲刈りの体験をさせていただきました。収穫を祝って地域の人を招いて行う収穫祭は残念ながらできませんでしたが、身近なお米の栽培に関わり、地域の方とつながることで、地域の良さを知り、感謝の心が育まれています。



地域の方々の知恵をいただく貴重な機会となっています。こうした地域学校連携は、児童の豊かな感性の育成につながっています。今後も『市民と協働した教育を進める「30万人の市民を先生に」』という奈良市教育振興基本計画の基本方針実現ために、さらに地域の方と子どもたちがつながり、学びの輪が広がることを願って取組を進めています。

【今年度のまとめ】

本年度も、本校の特色でもある地域の方に学ぶ聞き取り学習や体験・交流学習・栽培活動が制限されましたが、毎朝の登校見守りや上記の活動で児童が地域の方と関わる中で、学校だけでは学べない体験をし、豊かな感性や郷土愛の育成につながりました。地域の方との活動は、学校評価において、児童・保護者共に95.9%の肯定的な回答を得ました。学校教育の様々な場面で地域の方に見守られ、支えられながら地域の歴史を知り、地域に愛着をもつ子どもたちの育成を目指しました。

【来年度に向けて】

来年度も精華・帯解両地区の良さを生かした取組を大切にしながら、地域で学んだことを誇りに思う児童の育成と、豊かな感性をもち主体的に生きる子どもの育成を目指していきたくと考えています。また、取組の内容を多くの方に知っていただき、さらに継続・発展させていくために広報にも力を入れていきます。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

地域とのつながりを感じながら、心豊かで、いきいきと活動する幼児の育成

【今年度の取組紹介】

『ランランひろば』1年を通して6回、民生児童委員をはじめとした地域の方々に来ていただき、ランラン広場を行っています。年間計画を立てて、一緒にふれあい遊びをしたり、運動遊びをしたり、七夕集会やおたのしみ会に参加していただき一緒に楽しむなど、色々な事をしていただいています。回を重ねていく事で顔や名前も覚えてきて、「あっ、〇〇さんが、来てくれた。」「〇〇さんだ。」と話している子ども達です。地域の方も、『町やスーパーで見かけると、「〇〇さんや。」「また来てね。」と声をかけてくれるんですよ。』と嬉しそうにお話してくださいました。また、回を重ねることで、



親しみも芽生えてきて、自分から声をかけに行ったり、「次はいつ来てくれるかな。」と楽しみにしたりする姿も見られました。ランラン広場の最後の日には、地域の方から、手遊びをしてもらったり、大型絵本を読んでいただいたり、パネルシアターをしてくださったりと、子どもたちも大喜びでした。

**【今年度のまとめ】**

コロナ禍で地域の方とふれあう機会もまだ制限がありましたが、その中で経験した1つ1つが大変貴重なものとなりました。また1年を通して地域の方に関わっていただくことで「〇〇さんだ。」「〇〇さんが来てくれた。」と、より親しみや感謝の気持ちをもったように思います。また、褒めていただいたり認めてもらったりすることで、子どもたちの自信や意欲にもつながり、主体的・意欲的に活動する力にもなりました。そして、様々な取組を通して感動体験を味わい、豊かな感性にもつながっていると感じます。

【来年度に向けて】

地域の方々の協力を頂きながらその中で、地域の方とのつながりを感じ様々な感動体験ができるように、また子ども達が、地域の方々に親しみの気持ちをもち、人とかかわることで得られる感謝の気持ちや自分を取り巻く地域を大切に思う豊かな心を育てていくことを願います。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

地域に開かれたこども園をめざし、豊かな心とたくましい体を育む

【今年度の取組紹介】

春に山町地域環境保全協議会、そして地域の方にご協力いただき5歳児36名がサツマイモの苗を植えました。ぬかるんだ畑の土に戸惑う姿もありましたが、「こうやってするの?」「あってる?」と地域の方に聞きながら、初めての苗植えを楽しんでいました。秋、長く伸びたツルの先に期待を膨らませ、地域の方に手伝ってもらいながら掘り起こしました。園に持ち帰ると掘り起こしたサツマイモの数や重さを数えたり測ったりして、収穫した喜びを友達と共有していました。

11月には、焼き芋パーティをしました。朝早くから準備をして下さり、子ども達は煙がもくもくと上がるもみ殻の中に、自分たちで洗ったり包んだりしたサツマイモを入れ、焼き上がるのを楽しみにしていました。焼き立てのおいしさを味わう嬉しい体験ができました。

また、年間を通して畑の先生として地域の方に来ていただき、子どもたちと畑づくりや種まき・苗植え、畑の世話の仕方を教わりながら、玉ねぎ・ナスビ・カボチャ・ブロッコリー・白菜など、季節の野菜を育てて収穫する中で、生長の喜びや収穫への期待、そして、食への意欲などにつながる豊かな心の育ちの経験となりました。



【今年度のまとめ】

菜園活動、環境整備、教育支援等、地域の方の様々な協力や支援のもと、経験や体験を積み重ね、地域の方に親しみをもつなど、ヒトとのつながりが豊かになっていることを子ども達の姿から実感できます。また、年間を通して野菜や花などに関わることは、すべての生き物の生長に対して子どもも職員も見通しをもつことができ、「めがでてきた」「すこしのびたね」など小さな変化や喜びを感じながら、モノやコトとも繋がることのできたと感じています。

【来年度に向けて】

地域や保護者の方の協力を得ながら、子どもたちの学びや育ちにつながるような多様な経験と、地域の方とのつながりを大切にしつつ情報発信もすることで、こども園の教育・保育への理解を更に深めていただき、地域に開かれたこども園として事業を進めていきたいと思っております。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

- ・ 地域とのかかわりを通して、お互い認め合い、助け合い、思いやる心を育てる。
- ・ 地域の良さを生かした、豊かで多様な体験をしながら、生きる力の基礎を培う。

【今年度の取組紹介】

運動・リズム遊び事業として、昨年に引き続き講師を招き5歳児の子どもたちに継続して和太鼓の指導をしていただきました。バチの持ち方や構え方、良い音が出るたたき方などを教えていただき、太鼓の音の響きを全身で感じながら、友達と一緒にリズムを合わせる心地よさを味わうことが出来ました。地域の地蔵尊祭には「子授け太鼓奉納」を行い、油かけ地蔵さんにみんなの願いを届けました。運動会のオープニングにも演奏をし、力強い太鼓の音が響きわたりました。今年度は、新たに講師を迎え運動遊び教室も行い、ボールを使った遊びや縄跳びも教えていただきました。体を動かす心地良さを感じる事が出来、体力の向上にも繋がっています。

焼き物体験事業では、地域の陶芸教室で活動されている方々に教えていただき花器を製作しました。陶芸の粘土に触れ、「粘土、冷たくて気持ちいい」「硬いな」等と言いながら、手や伸ばし棒で粘土を伸ばし、形を作っていました。陶芸教室の方々に素焼きをしていただき、色付けでは、子どもたちが好きな色を選び、一人一人丁寧に手伝っていただきました。生花体験事業で講師の方を招き、自分で作った花器に花を生けて作品展に展示しました。多くの保護者の方や陶芸教室の方々にも見ていただくことができ、花器作りから生け花まで貴重な体験となりました。

「和太鼓教室」「焼き物教室」「生け花教室」「運動遊び教室」「菜園活動」「防災教室」等を通して、地域の方に親しみを感じ豊かな感性を育む経験が出来ました。



【今年度のまとめ】

地域の方々にご協力をいただき、「和太鼓教室」「菜園活動」「花いっぱい運動」等様々な体験や経験を通して、優しい気持ちや思いやりの心を豊かにすることが出来ました。和太鼓では、5歳児の太鼓をたたき姿を見て、3・4歳児が憧れの気持ちを持ったり、花いっぱい運動で園に花苗をたくさん植えて地域の方と一緒に美しさを感じたりする姿が見られました。地域の方々と共に活動することで地域の方に親しみを感じながら、感性を豊かにする経験に繋がったと思います。

【来年度に向けて】

活動内容の充実を図り、保護者や地域の方と共に活動を進め、感性豊かなしなやかな心と身体をはぐくむ取組が出来るようにしていきたいと思っています。また、子どもたちが地域の方と交流を深めながら、地域に親しみをもち、地域を大切にする気持ちを育てていきたいと思っています。こども園の教育・保育内容への理解を深めてもらい、開かれた地域のこども園になっていきたいと思っています。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

**地域の教育力を生かした取組の中で、
ひとりひとりの笑顔がかがやき安心して園生活を送れるようにする**

【今年度の取組紹介】

今年度より、子育て支援事業の一環として始めた『おはなしの会』は、地域の幼児教育経験者の方を招きました。コロナ禍で、時間を制限しクラスごとの実施となりましたが、地域の方のご協力をいただき、予定通り行うことができました。

事前に会の内容を記した掲示物を届けていただいたことで、『おはなしの会』に期待を持ち、「もうすぐ、おはなしの会やなあ」「今度は〇〇のお話やって」と心待ちにする姿につながりました。お話の世界を楽しめるように一人一人の表情に目を配りながら、読み方を工夫したり手遊びや軽いストレッチを組み入れたりしてすすめてくださったことで、言葉の美しさやおもしろさを知ったり、お話を落ち着いて聞く態度が育ったりしたと感じます。



継続して行うことができたことで、積極的に質問や思いを述べたり終わり際にはハイタッチを求めたり、地域の方を身近に感じ親しみを持って関わる姿が見られるようになりました。各年齢に応じた絵本や楽しいペープサートに親しみ、おはなしの世界から好奇心を刺激し、想像力を豊かにする経験につながりました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍で、昨年度に引き続き例年通りの取組の形や内容ではなかったのですが、人数を制限したり時間を短縮したり、また密を避けた環境作りの工夫を行いながら事業に取り組んできました。地域の方には子ども達の園での遊びや生活の様子を見ていただき、こども園の教育・保育を知ってもらう機会となりました。今後も地域の方を身近な存在と感じ地域に開かれたこども園となるよう、地域の方と共に歩んでいきたいと思ひます。

【来年度に向けて】

コロナ禍であっても、地域の方の教育力を活かした取組が引き続き行えるように、今年度の経験をもとに事業を検討します。また、子どもにとりより良い豊かな体験が重ねられるように、地域・こども園・家庭が連携を図り事業を計画し進めていきたいです。